

2026年度 博士前期課程入学者選抜(Ⅱ期)

学 力 検 査

専 門 科 目

(グローバルコミュニケーションコース)

【問 題】

次の各問に 600 字以内の日本語(横書き)で答えなさい。必修問題は必ず解答し、選択問題は4つのうち1つを選ぶこと。解答には指定の解答用紙を使用し、選択問題については選択した問番号を解答用紙の左上の に記入すること。

【必修問題】

次の文章は、スペインの思想家オルテガ・イ・ガセット(1883～1955)が1930年に出版した『大衆の反逆』の一節です。現在の世界の状況に照らして、オルテガの考え方はどのような今日的意味を持っているか、あなたの考えを述べなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(佐々木孝訳『大衆の反逆』岩波文庫、2020年、72～74ページ)

【選択問題】

【 1 】

百瀬宏は『小国一歴史に見る理念と現実』(岩波現代文庫、2022 年、原著 1988 年)の中で、「小国」という概念は時代の状況に応じて変化してきたことを指摘している。ポスト冷戦・グローバル化時代における「小国」とはどのような国家かを説明した上で、「小国」研究の今日的意義についてあなたの考えを述べなさい。

【 2 】

いわゆる「多文化共生」という考え方には日本人の優越を自明のものとしたり、同化主義やパターンリズムが内包されているとの指摘があります。この指摘に関連して、「共生社会」を作り出すためには、どのような日本人マジョリティの意識変革が必要か、あなたの考えを述べなさい。

【 3 】

フランス語で、Il est blanc comme neige. (直訳:「彼は雪のように白い」)は普通「(警察の疑いにもかかわらず)彼は完全に潔白だ。」を意味する。言語的な比喩が文化的前提とどう関わるか、自分の考えを述べなさい。

【 4 】

現地を訪れる以外の方法で外国に接することは可能か？ 可能だとすれば、それはどのような方法によってか？ また現地を知らずに外国の文化に接することのメリットとデメリットについてあなたの考えを書きなさい。

2026年度 博士前期課程入学者選抜（Ⅱ期） 学力検査
専門科目（グローバルコミュニケーションコース）

《解答・解答例》

論述試験のため採点のポイントを示す。

【必修問題】

【採点のポイント】

1. 引用文の趣旨を正確に読み取れているか。
2. 過去と現代を比較するという研究視角を理解しているか。
3. 自分自身の歴史認識を的確に表現できるか。

【選択問題】

【1】

【採点のポイント】

1. 「小国」を正しく定義しているか。
2. 小国研究の意義について、自分自身の認識を適切に表現できているか。

【2】

【採点のポイント】

1. 「多文化共生」を批判的に理解できているか。
2. 「共生社会」実現のためのマジョリティの意識変革の必要性を理解し、その方策について自分自身の考えを適切に表現できているか。

【3】

【採点のポイント】

1. 比喩の解釈には文化的な前提が必要であることを理解していること。
2. 言語学的な研究の背景を踏まえた議論ができていること。
3. 論理的で分かりやすい日本語を用いていること。

【4】

【採点のポイント】

1. 外国文化との接触方法の多様性を理解していること。
2. 自らの経験と理論的な考察の間に整合性があること。
3. 論理的で分かりやすい日本語を用いていること。

《出題の意図》

【必修問題】

本研究科での学修・研究のための基本的な資質・能力を問うため、近年、再評価されつつある政治・社会と人々の社会意識の変容に関する古典的文献に関する問題 1 題を必修問題として出題した。

【選択問題】

受験者の専攻分野を考慮して選択問題 1 題を回答させ、大学院での学修・研究のための基本的な資質・能力を問うた。